

## 篠栗町のクスノキ

写真① 尾仲区・老松神社境内にある町指定文化財（天然記念物）の第1号木・老松宮クスノキ（上）と第2号木・生田森クスノキ（下）



木を見てみると、2号木の巨大な幹は高さが4mほどしかないうえ、南側半分が腐つて空洞になっています。おそらく遠い昔に落雷に遭ったのでしょうか。

樹齢は1号木が約300年400年とすれば、それよりもっと古い年齢に思われます。梢の枝枯れで判定します。

境内の説明板には、老松神

尾仲区にある老松神社には、町指定の天然記念物である2本のクスノキの巨木があります。1号木は昭和59年（1984年）指

定、高さ約21m、地上1.3mで幹周り9.6mの老松宮・大樟で、2号木は平成6年（1994年）指定の粕屋町から生田森へと

写真② 青々とした常緑の葉と果実



高さ約30m、幹周り9.2

た樹勢は、樹幹がひどい状態の2号木のほうが元気そでした。両者とも青々としました常緑葉と無数の丸い実をつけ、まだまだ長生きする意気が十分に感じられます。（写真②）

次はクスノキの植物学的な話です。まず、漢字で「樟」名では「樟」が正しく、「楠」は同じクスノキ科タブノキの仲間を示しますので適当ではありません。クスは日本の中東以西・沖縄・台湾・中国中南部・ベトナムなどに悠久の昔から境内にそびえ立つ老樹です。（写真①）

境内の説明板には、老松神社の由来を記した約300年前の古文書「筑前国續風土記」などによると、この地がかつて太宰府天満宮の神領であったころに、隣

の立花山（標高367m）には、幹周り12～13m、高さ20～30mの巨木が群落で自生する北限地として、国宝級文化財に相当する「国

内装・仏像などに使われます。さらに薬用の強心剤と

特有のさわやかな香り成分内に立花山（標高367m）を有し、抽出された精油は防虫剤の樟脑や各種香料となります。また、木材は保

南日本に多く、県下はじめ町内の神社や山野にも数多く生育します。同じ糟屋郡内装・仏像などに使われます。さらに薬用の強心剤と特有のさわやかな香り成分内に立花山（標高367m）を有し、抽出された精油は防虫剤の樟脑や各種香料となります。また、木材は保

んと9本をクスが占め、そ

れ代わります。新緑は、橙色へと変化し、燃え立つように勢いがあり、長生きであること

がで

す。

町文化財専門委員 井上 晋